

「

『イタリア巡礼とルルドへの旅』を終えて — 遠野教会 畠山 美代子 —

巡礼を終えて様々な光景が思い出されます。関西空港を出発し、飛行機が北周りだと気がついた時何かしらホッとしました。天候にも恵まれ、ロシアの上空と思われる北極圏の下界を見ると灰色の渦巻き、縞模様の続く不毛の凍土ツンドラでした。初めて目にした地球の一部・・・驚きでした。

カトリック聖地巡礼センターの山岡神父様の文には、「具体的な期待を持って、巡礼に出掛ける決意がなくてはならない」とありました。実のところ私は今考えてみると“無”でした。でも少しだけ心のどこかに聖地での“何か”に期待していた感がありました。

ローマ着。翌日ローマ・ヴァチカン巡礼。大聖堂サンピエトロ内巡礼では、内部の天井や回廊の彫刻、壁画の素晴らしさは言葉にならない圧巻でした。人業ではないと思いました。この霊的な大聖堂に身を置くことは一度の巡礼ではとてももったいないことでした。

それからの巡礼は、聖地までバスで祈り、バスを降りて聖堂まで歩き、そこでミサを捧げる日々でした。いつも心を清められるひと時で、バスの中での祈りは神父様方、参加者全員が一つになれる聖なる時間でした。

時々、バスの窓から外景を眺めていると広々と続く草原は麦畑でした。山々は緑が多く美しいのですが、所どころ石がゴロゴロと顔を出していて、この地には石の山が多いのかな一等考えを巡らし、石で出来た建物が多いことにも頷けました。

私達は昔から何万人もの人々が、いや数字では表せない位の多くの人々が歩いたであろう聖地、祈りの道をひたすら祈りつつ共に歩きました。夕食に出るパスタを食べ、力をつけて皆であの人もこの人も共に歩きました。今想うと深い感動と感謝で涙が溢れます。「神様、ありがとうございます」と。全行程、祈りと喜びを持って歩き通した日々に。私達を祈りの巡礼によって神の近くに導いてくださったニコ神父様はじめ神父様方、全員をそこまで導いてくださった松村様、いつもそばで助けてくださった佐藤あつみ様、福田様に心から感謝申し上げます。また、遠野教会の皆様、私達の無事をいつも祈ってくださったことに親しみを込めてお礼申し上げます。感謝のうちに。